

1 「五十川獅子踊り」の由来

今から 150 年程前、「蘊安神社」の再建にあたり、近郷近在から神楽、芝居、念仏踊り、田植踊り等が奉納されることとなった。地元五十川からも何かを奉納したいということから、当時、名の高かった川合村（現長井市河井）から師匠を招いて取り組んだのがそのはじめといわれている。

その後、毎年の行事として踊っていたが、存続の危機を迎えた時期も。心あるものが習い継ぎ、昭和 48 年には、五十川地区民による保存会が結成され、同年に長井市無形文化財の指定を受けている。

この踊りは、獅子が牡丹の花を愛し、今は盛りと咲き乱れる中に飛び込み、花にたわむれ喜び踊るさまをあらわしているといわれている。

2 「ふるさと学習」としての取組から「少年少女五十川獅子踊り」へ

昭和 50 年代の中頃、「ふるさと学習」において「獅子踊りの追体験」として取り組んだことがはじまりで、地域の方々を指導者として招くようになり、「獅子踊り学習」が教育課程の中に位置づけられるようになった。以後、6 年生のふるさと学習として取り組んでいく中で、保存会の方々を「お師匠様」と呼ぶようにもなり、「少年少女五十川獅子踊り」として本校の特色ある教育活動となっていった。6 年生から 5 年生への引継ぎも大事な活動として継続されてきた。

平成 8 年頃からは、取組みの成果を創立記念式や地区文化祭、地区敬老会等で発表するようになった。また、平成 22 年には「山形ふるさと塾活動賞」を受賞し、同 28 年に日本一さくらんぼ祭り「ふるさと芸能のつどい」、同 29 年に置賜こども芸術祭に参加して獅子踊りを発表している。平成 30 年には、地域の伝統文化・芸能を継承する教育活動として「やまがた未来賞」を受賞している。

3 現在の取組

近年は、児童数の減少により 5・6 年生合同での取組となっているが、2 学期後半からは、引き継ぎのために 4 年生も活動に加わっている。活動の時間は、「ちほうタイム」（総合的な学習の時間）に位置付け、コロナ禍における活動制限の時期を乗り越え、学習発表会や致芳地区文化祭等での発表も復活している。

お師匠様方の代替わりもあったが、これからもスクール・コミュニティにおける「地域学校協働活動」として持続可能な取り組みとなるよう努めていきたい。